

アロマセラピーの生理学的基礎：光学活性リナロールを用いた
官能評価と生理計測
広島女大健康科学 ○菅原芳明

目的 我々は、作業と香りとの関連性もしくは作業に対する香りの有効性を判定する
目的で、アロマセラピーで広く用いられている種々の香油（ラベンダー、ローズマリ
ー、リナロール、ペパーミント、バジルなど11種）について、被検者に3種類の作
業（精神作業、踏み台昇降運動、自然環境音聴取）を課し、作業の前後で、それらの
香りの官能が変化するか否かをSD法で評価して来た。その結果、リナロールは、自
然環境音聴取後、香りの官能評価が有意に高まるのに対し、精神作業後は、悪くなる
ことが示された。本研究では、このようなリナロールの効果について、光学活性リナ
ロールを用い、官能検査法および簡易脳波計測法（IBVA脳波計）双方から、詳細な
検討を行った。それらにより、リナロールの心理・生理効果について、考察する。

方法 光学活性リナロールは、ラベンダーオイルより(R)-(-)-リナロールを、コリア
ンダーオイルより(S)-(+)-リナロールを、それぞれフラッシュカラムクロマトグラフ
ィーで分離・精製した。また、(RS)-(±)-リナロールは、同様の方法で、市販リナ
ロールより分離・精製し、対照として用いた。

結果 リナロールの効果は、(R)-(-)-リナロールによる「沈静効果」との成績を得た。